



松本市長 菅谷 昭

市議会2月定例会 提案説明から

さらに「いい街・松本」の まちづくりを目指して

※提案説明の全文は、
市ホームページ
をご覧ください。

生きがいの 仕組みづくりに向けて

本年は、市制施行110周年を区切りとし、次の10年の礎を築く始めの年です。また、私が市政運営を預かり、4期目の折り返しの3年目の年でもあります。

市長就任以来14年にわたり、市民や議会の皆さまと共に着実に積み重ねてきたさまざまな政策の成果を、「健康寿命延伸都市・松本」の理念に沿う形に整え、さらに「いい街・松本」のまちづくりを目指す重要な年となります。

私は、人々が住み慣れた地域で、お互い様、お陰様の精神で支え合い、自らが選択した「生きがい」を持って充実した人生を満喫し、このまちに住んで良かったと誇りを持ち、生きていて良かったと幸せを感じる事ができる地域社会をつくる事が、「生きがいの仕組みづくり」であり、これこそが行政の最終命題で

あると考えています。

これは、誰もが自らの思い描く理想の生き方を選択できるような、行政が市民に対し日々当たり前に暮らしていく、安心・安全な生活環境を整備し、その中で人と人との出会いや交流の場、学びたいことを学べる機会を提供し、生きがいづくりを後押しすることです。

そのためには、市民の皆さまの「生活の質」を大切に、バランスの取れた多様な施策を、今後も一つ一つ着実に進めていくことが不可欠であると考えております。

子どもや若者の成長を 後押しする政策を

私は、市長就任以来、一貫して子育て支援を最も重要な施策の一つとして進めてまいりました。来年度は、「シルバーデモクラシー」に相対し、昨年6月の定例会の際、答弁申しあげた「キッズ&ユース

デモクラシー」(KYデモクラシー)の下、「未来への投資」として、子どもや若者の成長を後押しする施策に、より一層重点を置いて取り組むことといたしました。

とりわけ、昨年、松本市でも初めて生じた待機児童解消に向け、目下、かねて取り組んでまいりました保育士確保の取り組みに加え、保育園の施設整備など、ソフト、ハード両面から、鋭意、対策を講じています。全体的に入園申込者が増える中、特に3歳未満児の入園申込者が昨年度と比べ増えています。必ずしも普く入園のご希望に沿えないことも懸念されますが、一日も早い待機児童の解消に向け、スピード感を持って取り組んでまいります。

札幌便の夏期増便を 契機に

この度、松本空港札幌丘珠空港線として、本年8月8日

から21日までの間、期間運航される事が長野県ならびにFDAから発表されました。改めて、FDA鈴木会長のご英断と、県を始め関係者のご尽力に感謝申し上げます。

札幌市内に所在する札幌丘珠空港には、利尻や釧路、函館などの道内近距離路線が就航しています。本路線の就航により、信州まつもと空港から札幌丘珠空港を経由して、北海道各地を訪れる皆さまの利便性が大幅に向上するとともに、観光文化交流都市である札幌市と松本市が、直接空路で結ばれることから、両市の交流促進がより一層図られることが期待されます。

松本市といたしましては、この札幌便の夏期増便を契機として、札幌市側からのさらなる利用促進に取り組みでまいります。

なお、大阪便につきましても、夏場の運航便の拡充について、関係機関に働き掛けてまいります。

国道143号青木峠付近の 未改良区間の事業化

長野県は、国道143号の青木峠付近の未改良区間で、新トンネル建設を含むバイパス整備の事業化に向けて、今年にも数百メートル幅のルート帯を示す方針を固め、現在策定中の「総合5か年計画」において、事業に着手する道路として盛り込むことを表明しました。

本路線は、松本地域と上小地域を結び、経済、文化を運ぶ道として発展してきた、歴史的にも由緒ある街道です。現在では、松本市の国道19号から、上田市の国道18号までを結ぶ主要幹線道路となっております。さらには、危機管理の面からも、国道254号とともに、災害時一次緊急輸送路としての重要な役割を担う路線です。

私は、松本市など周辺5市村で構成する「国道143号整備促進期成同盟会」の会長として、毎年、国・県に対しまして、青木峠トンネルの早期建設を中心に要望活動を実施してきており、この度の県の方針は、大変ありがたく、一日も早い事業への着手と完成を願うところであります。